

PHD LETTER

<18>

PEACE·HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1986・3

PHD運動とは1962年(昭和37年)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年(昭和56年)からはじまりました。

発行:財団法人PHD協会
編集人:草地 賢一
住所:〒650 神戸市中央区元町通5-2-3
甲南サンシティ元町ビル711 TEL(078)351-4892
郵便振替:神戸1-29688財団法人ピー・エイチ・ディー協会
定価:100円
レイアウト:エフアンドエフ

- フォローアップレポート…ネパール ……………P3
- 青春の胎動…ヒューマンネットワークを！ ……………P6



米袋を背に山道を行く兄弟 ネパール バブニバティ

डिन हुल्लि को सेवागर्ी PHD को अभियान हो।
 बढाउ हाउिहरु नदो सेवा र पूणे कार्यमा
 जुटे हागि अब लउ गउ PHD अभियानमा
 कैलउ मिउरल विउवमा गी कामि लेउ देउमा
 गर वचन उभि कलि लोने सहयोग कर्णमा
 जुटे हागि अब लउ लउ PHD अभियानमा

心を大きく広げて 平和のために前進を！
 みんなの心を寄せ合って
 共に励もうPHD運動に。

ひろげよう世界中の人々に この運動を！
 あなたの心とあなたの言葉で
 ささえよう。

作、第3期研修生 ショーバナ・シュレスタ

私のアジア体験

まずとにかく仲良くなること



白根洋三

しらねようそう 1929年神戸生まれ。神戸大学文学部卒。神戸新聞社勤務を経て、現在、白根企画代表、神戸共同印刷専務。PHD協会評議員。

私が神戸医大医学術調査隊の一員としてインドネシアを訪れたのは、昭和39年の夏だった。まだ、スカルノ大統領が健在で、8月15日の記念式典に列席し、大統領の演説を聞いた暑い昼下りの記憶が、鮮やかに浮かんで来る。

一行8人は、マイクロバスに乗って、ジャカルタから東へジャワ島を縦断、バリ島を経てロンボク島に渡り、ランダンナカという村で診療活動をした。案内役兼通訳（インドネシア語→英語）として厚生省の人か随行してくれた。

私は新聞記者だったから、隊の活動ぶりやインドネシアの人たちの暮らしをリポートするのが役目で、診療所に顔を出したり、辞書とカメラを手に、村の中をブラブラした。

随分大勢の村人たちと仲良くなった。ちょっと斜視の村長さん、小学校教師のマズキ青年、そして、いつも私の周りを群がり歩いた子供たち。露天の散髪屋さんで、さっぱりした気分になったこともある。

45日の旅を終えて、神戸に帰って間もなく、大学で教鞭をとっていた友人に会った。「余りいい仕事をしに来なかったみたいだね」私は驚いた。学問的に良い果実が少なかったという意味とわかった。「しかし、随分沢山の村人たちと仲良くなって来たよ」私はそう答えて、友人と別れた。

私は先陣に役目を果たしたと今でも思っている。それから2次、3次と大学の人たちが、インドネシアを訪れたし、そこで築かれたものが、今の神戸大学医学研究国際交流センター

の礎となっている。また、インドネシアの留学生を受け入れる道を開いたことにもなった。

あれから、もう20年以上になる。インドネシアも変わったろう。観光のメッカとなったバリ島では、ホテルのロビーでサソリにお目にかかるようなことは、もうあるまい。それでも、ロンボク島では、まだ大半が、裸足でその道を歩き回っているだろう。皆20歳も年をとった。離村の前夜「トワン ベソ プーラング」（あす帰るのですネ）と私の手をとって泣いた女の子も、もう30歳になったろう。何人かの子供を育てて元気に働いているに違いない。

私の懐しいインドネシアである。

や団体が増加し続けることでしよう。そしてそれらの諸団体は少しずつ整理されていき良い動きを続け得るものが残っていくでしょう。PHD協会が今取り組んでいる「基本金造成」の募金は何かとして成功させアジアの草の根の人々の中に平和と健康を作る人材づくりの業を安定して継続したいと念願しています。幸い我々はご寄附については「試験研究法人」という大きな特典を与えられています。全員、協力者のご支持を得てPHDを後世の人々にも引き継いでいきたく念じています。ご協力とごよろしくお願い申し上げます。

PHD協会総主宰 草地賢一

え言えるでしょう。このことは基本的に歓迎すべきことですか同時に幾つかの問題を持っていると思います。第一はブームというのはいつものまにか消えてしまうという一過性をもっています。地道な継続性を大切にしなければなりません。第二は日本からの一方通行の善意の協力は時として思い込みや感情でなされることがあります。十分な調査や相手方との連絡、調整が必要ですよ。第三は一、二の点と関連し資金や事業を展開する人材が早急に整えられることが必要です。これからまだしばらくは国際協力のグループ

途上国の現場で体験してきました。私自身が失敗したとき、その同じ失敗を善意に満ちた日本の皆様に繰り返していただきたくないという意味もあって、PHD運動を提唱させていただきました。

にもかかわらず、私の努力だけでは十分ではありません。まだまだモノ・カネによる「援助」にはアジア・南太平洋の草の根の人々の自立を損ねている部分が見られます。私も貴方もそして発展途上国の草の根の人々も、自分で自分の人生を作っていく可能性が備えられています。その可能性が、貧しさや飢えと病の悪循環によって阻まれていた人々もいます。特に日本に身近なアジア・南太平洋では、今日の日本の繁栄が、慢性貧困・慢性飢

「国際」をブームに 終らせないために

1980年代に入って日本各地に数多くの国際交流、協力団体が生まれてきました。PHD協会も設立は1982年8月。また行政も国際交流のために専門の担当部門を設置し活発に事業を進めるようになってきました。いわばこの数年「国際」は一種のブームになっているとき

架け橋

生きるとは分かち合うこと 弱者と――。

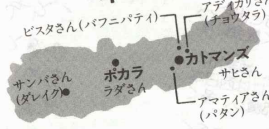
PHD運動提唱者 PHD協会理事 岩村 昇

貧しいからと言ってお金を送るだけ、飢えているからと言って食糧を送るだけの結果がどうなるかを、私はこの25年間、アジア・発展

フォローアップレポート

頑張ってる5人の声

ネパール



●1期生 ビレンドラ・アマティアさん

昨年からは鶏を始めて、家族の理解と協力を得て、街中の我家では、二階を利用して現在300羽を飼育しています。以前、農家を回り結核予防の仕事をしていた関係で、今でも時々村に出かけ、鶏や野菜の話をして、私は、鶏により、生活もよくなり、子供達も学校にいけるようになると思っていますので、ぜひ自分の鶏のひなを人々に与えて鶏を普及させたいと願っています。今は、会社の臨時雇いの仕事で生活していますが、一日も早く日本で学んだ養鶏と野菜栽培で自立しようと頑張っています。



自宅前で指導を受けるアマティアさん(左)

●2期生 ビシュヌ・アディカリさん

困ったことは何？「特にないけど、来年は学校をやめなければいけないことかな。」楽しいことは？「今、学校で勉強できること。」なぜ、ごはんもお腹いっぱい食べることができて、灰を指につけて歯を磨いている。村から持って帰った種卵をふ化させて村の人々に分け与え、育て方の指導をしています。養鶏は茶業改善や現金収入、また鶏糞の肥料利用の面でも大変有効なものです。家族計画協会の仕事の余暇を、もっと養鶏にあてられたいな、と思います。



鶏の生育びを説明するアディカリさん(中央正面)

住民意識の改革に期待を寄せらるリーダー達

ビスタさん

岐阜県穂高町で1期生ビスタ、アマティアさん、2期生アディカリさんに鶏の育て方、管理全般の研修指導。(岐阜県関市山町2-24)

養鶏研修生を訪ねて12月21日カトマンズ空港に降りた。まず初めにアディカリ氏の活躍するチョウタラへ行く。どの農家も茶褐色、黒色の鶏や、赤色野鶏に似た地鶏を庭先で飼育している。電気も薬も無い所でヒヨコを育てるのに苦労している。その他、この村では、学校教育・道路・電話・食糧等の問題があり、彼は、その対応に一生懸命であった。村人は彼を非常に信頼し、彼の言葉に真剣に聞き入っているのが印象的だった。次にビスタ氏の村、ヒグワパティへ。この村の人達は良く働く。土地は決して肥沃ではないが、働けば豊かになるという意識があつて行動を起せるような環境作りを力を入れている。又彼はバフニパティで、同僚2人と貧しい子供を同じアパートに住わせて、学校に通わせていた。彼のボランティア活動に、頭の下がる思いがした。アマティア氏は、カトマンズの近く、パタン市の街外れで養鶏を営んでいた。鶏の飼育環境・遺伝的品質・飼料の品質・養鶏技術に問題点があり、どれも早急な解決は困難な事であるが、私の指摘した飼育環境の改善策・点灯技術・防疫技術が経営安定と異なる様願っている。

85年12月20日～86年1月2日まで、フォローアップを大きな目的とするネパール研修旅行を実施した。一行は、研修生をお世話下さった先生、大学生、保母、病院のリハビリの技師、農業従事者、陶芸家、会社員、公務員、教師といったメンバー構成。訪問地は、サンバを除く5名の帰国研修生の活動現場。先生方には、現場指導や今後の方向性の検討をして戴く。各メンバーにとっては、ネパールの研修生や村の人々と接する事が、日本人の生活を顧みる機会ともなったようである。両国の人々が、互いに得る事多く、実のある旅行となった。

研修生が、日本で学んだ事は、必ずしもそのまま生かされてはいない。しかし彼らは、日本と全く違う環境の中で何と何と人の生活を改善しようとして頑張っていた。多くの問題をかかえてはいるものの、「困った人々のために」という思いがある限り、少しずつ解決されていくと思う。PHD協会は、「自立」という点を充分考慮した上で、今後共、研修生の活動のお手伝いをしていきたいと思う。

主事 増岡裕介

●2期生 ラダ・バンストーラさん

人々の生活向上を願い、手に職をつけて現金収入を得させたい。朝夕私の家に集まってくる15名の女性達(12才～22才)に、手編み中心の編物指導を行っています。材料、道具も豊富でないで自分達なりにあれこれ工夫していますが、ものが出来ると喜びます。組めないものかと思案しています。1日の食事に困っている人々は早く現金収入を望みます。しかし手編みは完成するに時間がかかり、その分現金収入が弱くなるので、もっと早く仕上がる編物指導をできると、生活改善にも大いに役立つのと思っています。



産前先生の指導をきくビスタさん(左)

●2期生 スリジヤナ・サヒさん

カトマンズのスラム地区、ドーカートの人々の生活向上を図るボランティア団体、マザークラブで活動しています。今月役員5名がお金を出して材料を買い、仕事の合間に編物を教えています。食料、健康、教育など、今の低い状態から少しでも抜け出すために、現金収入源となる職業指導を、女性を対象に行っていますが、全員に仕事を分け与えることができないのが悩みの一つ。今の生活の変化には結びつかないの、皆で知恵を出し合っています。シャローナさんが帰ってきたら、一緒に頑張りたいと思います。



ラダさん(ミンの右)の指導を受ける村の婦人たちの様子

精神的な活動するラダさんに感服

岩佐康子さん

2期生ラダさんの卒業技術指導及びホストファミリー3期生シャローナさんの研修指導中。(姫路市大津区天満75)

昨年末、マチャブチャル、アナンプルナ等の名峰を望むボカラの街に、第二期研修生、ラダ・バンストーラさんの家を訪ね5日間滞在させていただきました。ラダさんは帰国後、職業訓練所で編物を教える傍ら、奉仕活動として自宅附近や遠近の村々の人達に編物、洋裁を教えたり結核予防協会の仕事をしています。滞在中の一日、ボカラから近い村のひとつ、いつでも徒歩で片道4時間近くを要するチャバコートへ行きました。ここは、ラダさんが民家の一室を借り45日間寝袋で生活しながら編物を教えた所です。その中の数人が私達に会いに来てくれましたが彼ら達の生活は非常に質素で、毛糸も少なく編棒もなく、手で作った荒削りの竹の棒やコウリ傘の骨を利用して短い毛糸をつないで帽子や袋を編んでいました。現在の日本では想像も出来ない状態です。自宅では、ネパールの語の読み書き計算や編物洋裁を教えますが、編機ミシンの数も少なく、古いため部品にも不足し苦勞が思われます。筆記用具、部品、毛糸等私財を投じ、日本での研修を最大限に生かしているラダさんに感服します。今少しの手助けがあればより以上の活動が期待できると思います。

ヤングのコーナー

青春の胎動

ヒューマンネットワークを！
—ひとり、ひとりがキーステーションに—

繁内 幸治

しげうちこうじ 神戸須磨郵便局勤務
24才 兵庫県世界青年友の会事業局長
連絡先：〒654 神戸市須磨区東落合1-5-
167-615 TEL (078) 793-3706

昨秋行われたPHD協会主催「韓国の食文化と草の根を訪ねる旅」の参加者の中に、この欄にふさわしい青年がいる。との事で早速お話しを伺った。
まず、韓国の印象を尋ねると、習慣、食生活、ハンダグ文字など文化の違いに圧倒され、近

くて遠い国を実感したようだ。キムチが好きになり、韓国にちょっと近づけたかなと思ったり、歴史を学び互に違いを認め合えば理解につながると思ったこと等話してくれた。彼の所属する世界青年友の会は、総経理派遣で海外を体験した青年がおこしたボランティア活動で、18年前に発足し、全国に支部をもつ。兵庫支部では、県が海外から交流団を迎え入れた時に、学生や市民にディスカッションや、ホストファミリーを依頼する等、県民を巻き込んでのプログラムを実施している。そこで一般市民に外国人と気軽に雑談する事から、外国を身近に感じてもらう、それを窓口として世界の状況を知り、国際交流、国際協力に目覚め、ひいては、世界平和にまで高めて欲しいと彼は思い会の運営に加わっているそうだが、限られた人のまた一過性の交流に終わっては、せっかくの機会が惜しいと考えはじめた頃、PHD運動を神戸国際青年会議の場



で知った。PHDの運動について彼は語る。「この運動には、世界青年友の会が目指した“方向”のひとつの形がある。即ち単に物質のみの援助ではなく、村の実状にあった心と技術を持つリーダーの養成に努め、住民自身による村おこしの手助けをする。このような団体との横のつながりによって学んでゆきたい」と。彼は今、神戸市の長田で、新しいボーイスカウト(兵庫第72団)を10人の仲間と共に生みだそうとしている。「この団には、健康児も障害児も、同和地区、在日韓国・朝鮮人の子供もいる。そんな子供同志が、交わることによって、次代を担う彼らが“共に生きる”ことを体験ししっかりと生きた生き方への目をもってもらいたい、そしてそのような身近なところの活動に自分を含む青年がボランティアとして、
どんどんかかわって欲しい」と彼は続けた。3月30日に岩村先生を招いて行なわれる結団式典を、みんな楽しみにしているそうだ。彼の無垢な情熱に期待し、声援を送りたい。

PHD運動 参加者の声

ドシドシお便り下さい。

兵庫県三木市立緑が丘中学校2年8組の皆さんは、昨年11月、文化祭で「PHD運動」に取り組み、今年1月にはネパールの研修生ニーランさんを学校に招き日本にきている目的や今後の抱負、そしてネパールの地理、文化、風俗等の話を聞きました。後日その時の感想文をクラス全員がPHD協会に送ってこられましたので、その一部を抜粋してご紹介します。

ネパールの村は非常に貧しい。僕らの今の生活からではもう一つ実感が湧いてこない。僕らが裕福になりすぎて貧しい人達の事を意識せず、今の暮しに当たり前だと心のどこかで思っているのだろう。ガウチャンさんは日本に来て色々勉強しているそうだが、僕達も本当

の人間という事をもっと勉強しなければならぬのではないかと思う。僕も大人になったら、いや今からでもいい、人のために良い仕事をしたい。そのためにもっと心の勉強をし、それを生かしていきたいと思う。

(友野 徳之)

タイやネパールでは、5才になればもう重い荷物を何キロメートルも運ばれたりして働かなければ、生きていけないということをスライドを見た時、私は胸があつくなりました。それでも生きていけるというだけで幸せという時代が、日本にもあったはずだ。きっとその時の日本人は、今よりずっとずっと純粋な人間ばかりだったでしょう。その心はどこに行ってしまったのだろうと考えてしまいました。1円でも10円でもいいから募金したい。そんな気持ちで今、いっぱいです。そのためにもニーラン・ガウチャンさんの一生懸命のお話しを、耳にたたきこんでいきたいと思いました。

(柳川 智美)

ガウチャンさんに会って感じた事は、「日本人に良く似てるな。」「笑顔がとても素敵だな。」です。びっくりした事は、日本語がわりと上手だし英語、インド語その他たくさんの民族語が話せるという事です。又、日本人は色々な機械に頼っているけどネパールの人は自然のものを利用して色々な道具を作っているのだから羨ましいです。(樋口 哲也)

一度自分の目でネパールの様な土地を見てみたくなりました。もし修学旅行できるようにになったら、一番にそういう所に行って何か手伝いたいのです。(磯野 詩織)

私達は何の努力もしていないで色々な事を体験出来るのに、ネパールの人達はどんなに努力してもちっとも生活が楽にならない。私達は何も「努力」を知らなければならぬと思うしネパールの人達は「幸せ」を知らないといけないんじゃないかと思う。(南方裕美子)

PHD NEWS

以上の通り、多くの方々より会費とご寄附をお寄せいただきました。ありがとうございます。

パソコン オペレータ ボランティア募集

4月よりパーソナル・コンピュータを事務所に導入し、会員管理をすすめていきます。データの打込みにかんがりの手間が必要となります。作業をお

手伝いいただける方を求めます。初心者の方も歓迎。

韓国レポート、おわけします。

昨年9月に実施した韓国スタディツアー「食文化と草の根を訪ねる旅」の報告書がまとまりました。ご覧になりたい方は送料込300円分の切手を添え

てお申込み下さい。

アムネスティチャリティコンサート
黒沼ユリ子 ヴァイオリンリサイタル

国際人権市民運動をすすめるアムネスティインターナショナル日本支部関西連絡会の主催で行われます。当協会後援。

- 1986年4月5日(日) 午後7時
- 尼崎市総合文化センター アルカイクホール
- 入場券 自由席 2,000円より
- 問合せ・予約 アムネスティ大阪事務所 (06)376-1496

1986年度 PHDスタディツアー予定

新年度は次のような計画で、アジアの草の根からの学びを予定しています。

- (1)韓国農村 86年8月下旬
農村における村づくりの現場を訪ねる。
- (2)ネパール・フォローアップ 86年12月中旬
8名の元研修生の村を訪ねる。

- (3)タイ・フォローアップ 87年3月下旬
北部山岳地域の元研修生の村を訪ねる。

ロータスクーポンを集めて下さい。

ロータスクーポン、グリーンスタンプ、ブルーチップも研修生を支えるのに役立ちます。どんどん集めて下記に送って下さい。

〒380 長野市三輪10-6-25 清水真祐美様宛

好評、PHD GOODS

(詳しくはお問合せを)

- オリジナル・トレーナー：大人用¥3,500 子供用¥2,900
- オリジナル・Tシャツ：大人用¥2,000 子供用¥1,500
- アジア絵ハガキシリーズ：ネパール/フィリピン、タイ/インドネシア 各4枚入 ¥200

紙面の都合上、草の根差地点とPHDサウンドは、お休みします。



編集後記

今号は、2人の研修生(ニーランとプリチャー)へのきまなら号になりました。それにつけても研修生の日本語の上達ぶりには驚きます。ゼロからスタートし、半年もたつと、各所でスピーチができる程に。また、精神面でも感心させられます。ある一人など「双方がうまくかみ合わず、事態を変えたいような時は、まず相手の気持ちを察して、自分が変わらなければいけません。そうすれば自然と相手にも通じてきます。」と話してくれました。各地での研修生のふれあいは、多量の日本人の他のアジアの国々への隔りの心を縮めてくれたはず。今後とも、この市民レベルでの交流がうんと広がることを祈って、まずは研修生の皆さんご苦労様でした。お元気で!!

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため掲載しておりません。

基金寄託状況(会費・ご寄附)

1985年10月	¥2,100,110	・	172	件
11月	¥ 868,661	・	118	件
12月	¥6,809,342	・	679	件
1986年1月	¥2,600,953	・	263	件
計	¥12,379,066	・	1,232	件

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため掲載しておりません。